

帰国子女交流会

きょうから 友だち



△住んでいた国の言葉で自己紹介

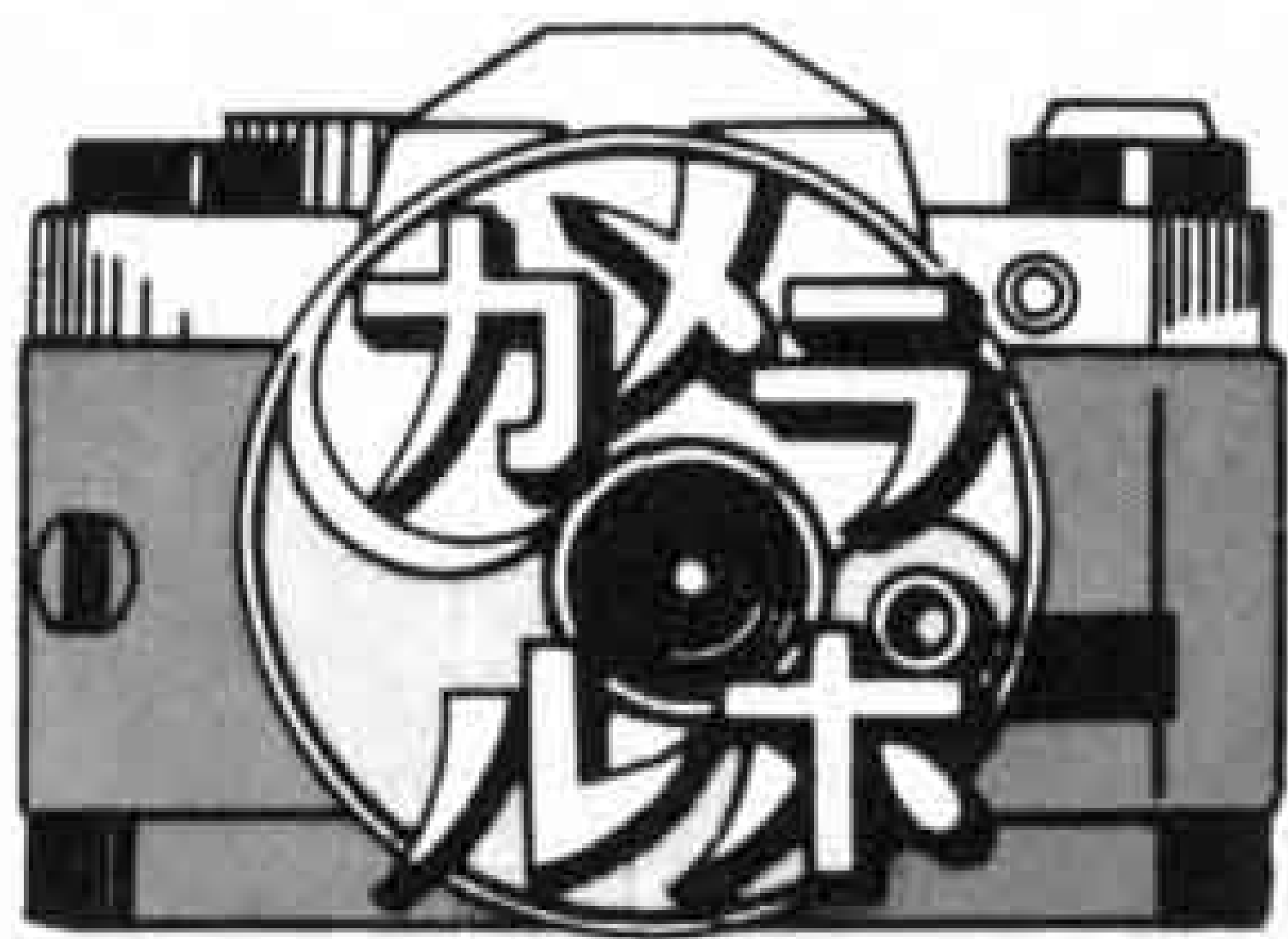


パンブーダンスも披露されました

▽スペイン語で演じられた寸劇「大きなカブ」



富士市は工業の町、企業の海外進出で長い間、外国で暮らした経験を持つ子供たちがふえています。十二月二十五日、富士教育会館で、こうした帰国子女の貴重な体験を一般の子供たちにも知ってもらい、国際理解に役立てようと、「帰国子女との交流会」が行われました。会場では、各国語でのあいさつや寸劇、民踊などが紹介され、子供たちは一つになつて楽しい時間を過ごしました。



「田子の浦に～」

ハイ!!

百人一首教室



◁ヤッター、これで八枚目だぞ

富士見台公民館は、年末から年始にかけて、子供のための「百人一首教室」を行いました。最終日の一月五日ともなると、三十人の受講生の中には、和歌の作者の名前や上の句だけで札を取る子供も現われるようになり、お互い目と耳に神経を集中させ、真剣に競技に取り組んでいました。

「駅伝」って苦しいけど 楽しいんです



第23回 富士駅伝競走大会



△スタート、最高に緊張する瞬間です

「仲間からタスキを受け取って、走り出す時はとても不安。途中だつて苦しいことばかり、でも終わった後の満足感はマラソンより数倍も上ですよ」と語ってくれたランナー。昨年十二月十日、「富士駅伝」の行われた吉原北中グラウンドは、千人近いランナーであふれ、二時間にわたる熱戦がくりひろげられました。



△ハアア、ハアア、ハアア、何とかタスキを渡したぞ、ハアア、ハアア



△タイガーマスクは余裕のポーズ

△沿道は大勢のギャラリー力は抜けません

博物館寄贈品展＝体験学習会＝

昔の道具でお米をつくったよ



△唐箕・風の力でお米を選別します



△瓶で精米・わあー、白いお米になったよ

市立博物館には、市民の皆さんから寄贈された古い道具や生活用品などが保存されています。昨年の十二月十日、十七日、寄贈品の農具を使って米づくりの体験学習会が行われました。干歯こきや足踏み脱穀機、唐箕など初めて見る農具に戸惑いながらも挑戦、ようやくお米が白い顔を出すと、子供たちの顔にも白い歯が見られるようになりました。